

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第4章 パート3

.....

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」

ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://jjoncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

黙示録4章を開いて下さい。

悪いニュースを伝えるのは気が進みませんが、ある記事によると、平均的なアメリカ人の銀行貯金額はわずか **83.40** ドル。「私はそんなに持ってない。」って？

これが悪いニュース。

そして良いニュースは、平均的なアメリカ人は、アメリカ政府よりも **4,6** 兆ドル多く持っている。ご存知の通り、政府は **4,6** 兆ドルの負債を抱えているから。

物事は与えられた状況の中で、どの視点から見るとよくなるか悪くなるかによって良くなるか悪くなるかです。

だからこの書はとても重要なのです。

このような時代に於いては特にそうです。

なぜなら、私たちはこのような時代の中でも、天国の視点、永遠の視点で見ることが出来るからです。

その違いは何でしょう。

今日がどんな日であったとしても、今どんな問題を抱えていたとしても、確かに困難な時、苦しい時はありますが、でもグッドニュースは、今がどん底だという事。

これから天国に向かうにしたがって、どんどんどんどん良くなります。

これが良いニュース。

神は、私がこの視点で見ると、いつも天国を念頭に置くように、この世ではなく、天のことに心を向けなさいと呼びかけられます。

朽ちることのない宝を天に積み上げなさい。

そこには、盗人も近寄らず、しみもいためることがありません。(ルカ 12:33)

主は、あなたや私に天からの視点で物事を見るように、永遠という大きなものに目を向けなさいといつも言っておられるのです。

黙示録 4 章では、私たちが天国にいる場面を見ることができます。

前回は 6 節の途中で終わったので、今日はその続きからです。

御座の中央と御座の回りに、前もうしろも目で満ちた四つの生き物がいた。(黙示録 4:6)

この目は視覚と洞察力。

外側も内側も見るというイメージです。

この四つの生き物は、前もうしろもこの目で満ちていて、

第一の生き物は、ししのようであり、第二の生き物は雄牛のようであり、第三の生き物は人間のような顔を持ち、第四の生き物は空飛ぶわしのようであった。(黙示録 4:7)

この四つの生き物には、それぞれ六つの翼があり、その回りも内側も目で満ちていた。

(黙示録 4:8)

この四つの生き物は、エゼキエル書 1 章と 10 章にでてくる“ケルビム”のことです。

ここで更に詳しく描写されていますが、エゼキエル書と同じ生き物、ケルビムです。

このケルビムが最初に登場したのはどこでしょう。

アダムとエバが、エデンの園で最初に罪を犯した時、憐み深い神は、彼らのことを思いました。

もし彼らが墮落した状態、朽ちていく体で、再び誘惑を受けて、いのちの木の実を食べたとしたらどうなりますか。

彼らは永遠に生き続けます。

どんどんどんどん年を取って永遠に生き続ける。

100 万年、200 万年…2000 万年…。

分かりますか。何百万年も地上で…。想像できますか。1000 万歳になった自分の姿…。

だから憐み深い神は、アダムとエバをエデンの園から追放して、朽ちていく体で永遠に生きることがないようにしました。

こうして、神は人を追放して、いのちの木への道を守るために、エデンの園の東に、ケルビムと輪を描いて回る炎の剣を置かれた。(創世記 3:24)

いのちの木の実を食べて永遠に生きることがないように、神は深い憐みによって彼らを追放し、再び戻ることができないようにケルビムを置いたのです。

これがケルビムの初登場で、次に出エジプト記で登場し、憐みの座に置かれています。それからエゼキエル書 1 章と 10 章。

イザヤ書 6 章で、ケルビムと非常によく似た天の生き物が登場しますが、こちらはセラフィム。

違いをひとことで言うと、ケルビムは御座の回りにいて、セラフィムは御座の上にいる。それぞれの働きが少し異なるのですが、今日は時間がないので詳細は省きます。

とにかくケルビムは御座の回りにいて、よく見ていくと彼らは驚くべき生き物なのです。エゼキエル書 1 章にあるように、それぞれが四つの顔—獅子、雄牛、人間、空飛ぶ鷲の顔—を持っています。

全身に目があって四つの顔に六つの翼…。

これらケルビムの外見は、私たちには「キモチワルイ。」

いいですか。

びっくりするほどぼんやりとしたこの世に生きる私たちにとっては、これらは気持ち悪く思えるでしょう。

でも、天国に行ったら分かります。「すごい!」「ステキ!」「信じられないくらい美しい!」

地上にいる間の私たちはまだ成長の過程にあって、「四つの顔の生き物?気持ち悪い!」

と思うでしょうが、天に行くまで待っていて下さい。

そうすれば分かるでしょう。「おお!これはすごい!!」と。

忘れないで。

この世は影。本当の実体は天国にある。

ここで、皆さんに説明したいことがあるので紙とペンを用意して下さい。

どうしてケルビムには四つの顔があるのか。目で見て確認してみてください。

2 世紀頃の初期の教会では、教師たちは、この四つの顔—獅子、雄牛、人間、鷲—を四つの福音書と結びつけて認識していました。

マタイはイエス・キリストをユダヤ人の王として描きました。

王権を象徴するのは獅子。

マルコはイエス・キリストをしもべとして表しました。

働き手の万国共通の象徴は雄牛。

ルカはイエス・キリストの人間性を描き、それが人間の顔として表されました。

ヨハネはイエス・キリストを神の子として紹介し、神性を描きました。

その象徴が驚です。

驚は、他のどんな生き物よりも高く飛び、また、他の生き物と違って驚だけが、目を傷めることなく太陽を直視することができるのです。

太陽の光。

御子イエスだけが、栄光の中におられる御父を見ることができる。

私もこれはすごく鋭い洞察で、真実だと思います。でも他にもあるのです。

もっと基本的なこと。感動的で驚くようなこと。

民数記 1 章・2 章で神は、荒野を旅している人々に、ある一定の形に天幕を張るように命じられました。

民数記 1 章。

幕屋のすぐ回りの北側、南側、東側、西側の区画には、幕屋で仕えるレビ人が宿営します。彼らはレビ族で祭司。

なぜこのようにするのか。単純です。皆さんや私にも当てはまります。

近所の人や大学構内、ここ教会の中、どこであっても、主に仕える人はいつも、神の栄光がある所の一番近い場所に天幕を張ります。

神に仕えることの醍醐味は、神の栄光に最も近い所に天幕を張れること。

これは、私たちの誰もが知っていることですね。

神に仕える。

信仰を分かち合い、誰かのために祈ったり、日曜学校で教えたり、近所の人に愛を伝えたり、どんなことでも神に仕える時、真に満たされ、栄光に与ることができます。

でも主に仕えず、自分のために働き、自分の欲求を満たそうとすれば、それが何であろうと虚しくなる。

主に仕える人は幕屋の近く、シャカイナ・グローリーに近づくのです。

だから神は私たちを用います。神が、必要だからではない。

人々が、弟子たちが叫んでいるのを黙らせるように言った時、

イエスは答えて言われた。

「わたしは、あなたがたに言います。もしこの人たちが黙れば、石が叫びます。」(ルカ 19:40)

言い換えれば、弟子たちがしていることは石にもできるという事。

神には私（の助け）は要らない。でも、私が仕えるのを許可される。

そのことによって私が満たされ、シャカイナ・グローリーに十分覆われるからです。

それで、レビ族は幕屋の全四方、北南東西。

次に行きます。書き留めて下さい。きっと見えてきます。

この宿営地について、神は実に詳細に指示しました。
北南東西のそれぞれに、適切な 3 部族ずつを配置。
それぞれの区画に 3 部族ずつですから、4×3 で 12 です。
12 部族が幕屋の回りに天幕を張り、レビ族は幕屋の一番近くでした。

神はこれが命令だと言われました。書いて下さい。

まず東側。

民数記 2 章によると、「ユダの宿営」

そこにはユダ族の旗が置かれ、共にいる 2 部族はイッサカル部族とゼブルン部族。

しかし。書いて下さい！

ここはユダの宿営と呼ばれたのです。

イッサカル族とゼブルン族も共に宿営したのに、ここは「ユダの宿営」

そして、ユダ族のシンボルはもちろん獅子。

イエスが、王国を統治するために戻って来られる時には、最初に来られた時のように仕える者ではなく、権威をもって吠えたける。

そして来られる方角は、当然東側。びっくりしますね。

だから東側がユダの宿営。

この宿営の 20 歳以上の男子の人数は 186,400 人。

書いて下さい。ユダの宿営、東側に 186,400 人。

次に西側。

民数記 2 章によると、ここはエフライム部族の宿営。

共にいるのはマナセ部族とベニヤミン部族。

しかしここは「エフライムの宿営」と呼ばれ、総数は 108,100 人。西側。

エフライム族の旗のシンボルは雄牛。

おさらいします。

ユダの宿営は 186,400 人で東側。エフライムの宿営は 108,100 人で西側。

彼らは向かい合って位置します。

次に南側。

「ルベンの宿営」

共にいるのはシメオン部族とガド部族で、総数は 151,450 人。

ルベン族のシンボルはずっと人間の顔。

北側。

「ダンの宿営」

共にいるのはナフタリ部族とアシェル部族で、総数は **157,600** 人。

ダン族のシンボルは、歴史を通してずっと驚でした。

覚えておいて下さい。

これら四つの宿営は、レビ族を含めて幕屋の四方、北南東西に張られました。

つまりこれは、半円でも円でもなく区画で、北東とか南西とかでもなく北・東・南・西。それぞれ区画なのです。

では、これらを絵に描いてみましょう。

東に **186,400** 人で一番大きな区画。

その向かい側、西は **108,100** 人で一番小さな区画。

約 **80000** 人の差があります。

北と南の宿営はほぼ同じですね。

幕屋を中心に、東に大きな区画、西に小さな区画、南と北はほぼ同数。

今、皆さんの紙には、十字架が描かれたことでしょう。

民数記の後半の話を覚えていますか。

バラムという預言者の話。

その時王権を握っていたバラク王は、「イスラエル人が攻めて来る！大変だ！滅ぼされてしまう!!」と言って、預言者バラムを雇い、神の民を呪わせようとなりました。

バラムは、「問題ない。イスラエルの民は姦淫、不品行、反抗的で不平不満ばかり。神は彼らに怒っていて呪うだろう。間違いない。」と思いました。

「オッケー！バラク。イスラエル人を呪ってあげよう。」

これは、彼が犯したミスで、“バラムの間違い”と言われていました。

この後、バラムがロバに乗って出発した話は知っていますね。

御使いに止められても、彼はとにかく進んで行きました。

そして、民数記 **22** 章の最後の節で、バラムは高い山に登り、上から神の民の宿営を見下ろして呪おうとしました。

その時、その山上の最も高い所から見下ろした彼が見たもの、イスラエル人の宿営地の形、それは、十字架！

私は、バラムがその意味を理解していたとは言いません。

とにかく、バラムは、見下ろして口を開けば呪いの言葉が出てくると思ったのに、出てくるのは祝福のみ。

「視点を変えよう。」と言って、違う場所から宿営地を見下ろしますが、口から出てくるのは、やはり祝福。**3** 度目も同じ。

遂に、彼を雇ったバラクは怒って、「何てことだ！呪うためにお金を払っているのに!!」
これに対してバラムは言いました。「祝福が、勝手に口から出てくるんだ。」
「私だって言いたくない。でも、これしか出てこないんだ！」

私が言いたいのは、これが天の幕屋のポイントだということです。
神は、神の民である皆さんや私の宿営地を見ておられます。
私たちなら、「はぁ。お前は呪われるべきだ。」「お前も呪われるべきだ。」
「お前は呪われろ。」「お前も呪われろ。」「お前も。」「お前も。」…「私も。」…
私たちは反抗的で、ブツブツ文句は言うし、すべきことはしないで、傷やしみだらけ。

しかし神は、一番高いシオンの山から、十字架の光の中にいる神の民を見ておられ、十字架の中に宿営し、キリストに身を避ける者を祝福したいと、それだけを望んでおられるのです。これはとてつもなく大きくて、非常に重要なことです。
なぜなら、余りにも多くの人々が、このことを理解していないからです。
神が私たちを、「ああ～いやだ。ジョン、どうして?」「次は何なんだ!?!」と見ていると思っ
ています。

神は私たちを見下すのでしょうか。
あのバラムでさえ、呪いたくても呪えなかった。
十字架の形に宿営を設けている神の民を見て出てきたのは、祝福だけでした。
神が、皆さんや私を見る時も同じです。
私たちが犯してきた、また犯している全ての愚かで汚い罪の代価を支払うために、イエス・キリストが死んだという、カルバリーの十字架の光の祝福を見るのです。
だから聖書は天の祭壇を、“恵みの御座”と呼び、辛い時には憐みで助けられるのです。
すべて、カルバリーの十字架のおかげです。素晴らしい！

一度このように見るならば、ためらわずに御父に語りかけられるようになります。
たとえ今朝、祈らなかったとしても、何週間も祈っていないとしても、自分や他人が求めるようには振る舞えなかったとしても。
十字架の体制で、イエスの血に覆われている神の民を、シオンの山から見ている神を知るにつれ、私も、必要な時、望む時にはいつでも堂々と御父の前に出ていい。
そうすれば、憐みと助けを受けられるのだと思います。
これが天国的思想、天国的視点です。栄光！

さて、ケルビム。
なぜ顔が四つあるのかを理解するには、民数記に戻って神の民の天幕を見れば分かります。
しかも、非常に面白く驚く形で十字架が見えてくるのです。

つづく

しかし、シオンは言った。「主は私を見捨てた。主は私を忘れた。」と。

「女が自分の乳飲み子を忘れようか。自分の胎の子をあわれまないだろうか。

たとい、女たちが忘れても、このわたしはあなたを忘れない。

見よ。わたしは手のひらにあなたを刻んだ。

あなたの城壁は、いつも私の前にある。」(イザヤ書 49:14 - 16)